

# 琉球大学学術リポジトリ

## 北魏孝文帝代の尚書省と洛陽遷都（4）： 宗室元氏の尚書省官への任官状況に焦点を当てて

メタデータ	言語: 出版者: 琉球大学法文学部 公開日: 2015-08-19 キーワード (Ja): 北魏, 孝文帝, 尚書省, 平城, 洛陽, 遷都 キーワード (En): 作成者: 長部, 悦弘 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/20.500.12000/31494">http://hdl.handle.net/20.500.12000/31494</a>

北魏孝文帝代の尚書省と洛陽遷都（４）  
—宗室元氏の尚書省官への任官状況に焦点を当てて—

長 部 悦 弘

Yoshihiro Osabe

The Secretary Department 尚書省 and Transfer of the Capital  
from Pingcheng 平城 to Luoyang 洛陽 under the Reign of the  
Emperor Xiaowen 孝文帝 at the Age of Beiwei 北魏

北魏孝文帝代は、北魏史上国家体制の一大転換点とみなすことができよう。476年に始まる文明太后馮氏の臨朝聴政下では、484年に班禄制を立て、485年に均田法を頒布し、486年に三長制を敷いた。490年の文明太后馮氏の亡き後、孝文帝親政下で491年に第1次、499年に第2次官制改革を各々遂行し、493年には洛陽遷都を敢行し、496年は姓族詳定を推進した。なかでも493年の平城から洛陽への遷都は、北魏史上領域支配体制の中心たる王都を『農業－遊牧境界地帯』から『農業地域』に移した一大事業であったと言える。

孝文帝が国家体制の中枢機関の1であった尚書省を最重視して、自身の手により人事を行った。かかる大事業を尚書省を基軸に推進したとみられる。小論では、洛陽遷都前後の尚書省の人事配置を考察する前提として、同時期に教帝が敢行した行事・親征行を確認した。

キーワード：北魏 孝文帝 尚書省 平城 洛陽 遷都

## 目次

序

第1章孝文帝の尚書省重視

第2章孝文帝代前期献文帝と文明太后の軋轢（471～476）

第3章文明太后による献文帝の寵臣肅清（476～479）（1）

第4章文明太后臨朝聽政体制の確立－文明太后集団の成立

第5章孝文帝集団の成立

第1節文明太后集団の継承と構成員に対する処遇

第2節孝文帝集団の独自構成員

第3節外戚李氏と馮氏の待遇（2）

第6章孝文帝代の尚書省高官

第1節献文帝実権期（471～476）

第2節文明太后臨朝聽政期（476～490）

第3節孝文帝実権期第1期（490～497）

A 洛陽遷都前（490～493）

B 洛陽遷都後（493～497）

第4節孝文帝実権期第2期（497～499）（3）

第7章孝文帝の行幸・親征行

## 第7章孝文帝の行幸・親征行

孝文帝は493年8月己丑に平城を「南伐」と言う名目で進発し、同月戊申并州を經由し、9月戊辰に黄河を渡り、同月庚午に洛陽に到着し、丁丑に臣下の南伐停止の請願を受け入れて「遷都」を宣言した。平城から洛陽に向かう、第1回平城－洛陽行（493年8月～493年9月）である。これを皮切りに、孝文帝は行幸・親征行を重ね、それに伴い平城と洛陽を繰り返し空けた。（4）小論の冒頭で孝文帝が尚書省を最重視している旨を述べたが

(5)、北魏の最重要地である平城と洛陽を不在にする中で、孝文帝集團構成員を同省に配置したと想定される。同機関に対して如何なる人事配置を行ったのか、その支持集團と関連させて検討する前提として、孝文帝の行幸・親征行並びに支配者層の平城から洛陽への徙住過程、行幸・親征行の随従者を考察することとする。本章では、そのために先ず孝文帝の行幸・親征行を確認しよう。

平城-洛陽間行幸・洛陽-平城間行幸・南斉親征行・平城留守期間・洛陽留守期間を基準に孝文帝の移動・滞在を整理すると、その各回数は、平城-洛陽間行幸は3回、洛陽-平城間行幸は2回、南斉親征行は3回、平城留守期間は4回、洛陽留守期間は10回であった。(以下、表1北魏孝文帝行幸・親征行並びに平城・洛陽留守期間簡表、表2北魏孝文帝行幸関係表参照)

各期間は、平城-洛陽間行幸は第1回(493年8月~493年9月)・第2回(494年10月~494年11月)・第3回(497年3月~497年6月)(6)、洛陽-平城間行幸は第1回(494年2月~494年閏月)・第2回(497年正月~497年2月)(7)、南斉親征行は第1回(494年12月~495年5月)・第2回(497年8月~499年正月)・第3回(499年3月~499年4月)である(8)。平城留守期間は第1回(493年8月~494年閏月)・第2回(494年7月~494年8月)・第3回(494年10月~497年2月)・第4回(497年2月~497年3月)(9)、洛陽留守期間は第1回(493年10月~494年正月)・第2回(494年2月~494年11月)・第3回(494年12月~495年5月)・第4回(495年9月~495年10月)・第5回(496年8月~496年8月)・第6回(496年8月または9月~496年8月)・第7回(497年正月~497年6月)・第8回(497年8月~497年8月)・第9回(497年8月~499年正月)・第10回(499年3月~499年4月)である(10)。以下、孝文帝の平城-洛陽間行幸・洛陽-平城間行幸・南斉親征行において印した足跡、平城留守期間・洛陽留守期間と

の関係を、一瞥しよう。

孝文帝が493年9月に洛陽に到着した後即ち第1回平城－洛陽間行幸(493年8月～493年9月)の後は、翌10月戊寅に洛陽の金墉城に移るとともに、洛陽城の造営を命じた。だが自身はそのまま都城建造が進行中であった洛陽に定住せず、一旦離れて鄴に向けて移動した。同じ10月己卯に河南城に赴いた後、途中豫州・石濟・滑台を経て、同月癸卯に鄴城に至り、同月乙巳に元休(安定王)を随従した官の平城に残っていた家族を迎えに鄴から平城へ派遣した。11月癸亥には、竣工した鄴西方の宮殿に移り住んだ。孝文帝は鄴において越年した。翌494年正月丁未に鄴宮澄鸞殿において群臣を朝見した。16日後正月癸亥には洛陽に向けて南巡するために鄴を出立し、12日を経て乙亥に再度洛陽に戻り西宮に入ったのである。その間孝文帝の洛陽不在期間が、第1回洛陽留守期間(493年10月～494年正月)である。

翌2月には、平城に向けて北巡を開始した。河陰に幸した後、同日癸卯には黄河を越え、閏月壬申に平城に帰着した。これが、前年493年8月に平城を去った後、約半年ぶりの還幸であった。即ち洛陽において遷都を宣言して以来はじめての平城帰還であり、洛陽から平城に行く第1回洛陽－平城間行幸(494年2月～494年閏月)でもあった。以上、493年8月に平城を「南伐」と言う名目で発って以来、494年閏月に平城に戻るまでの期間が、第1回平城留守期間(493年8月～494年閏月)となる。

平城に4ヶ月ほど滞在した後、494年7月壬辰には陰山方面に向けて北巡に発ち、同月戊戌に金陵を参拝した後、朔州を経て、8月甲辰には陰山に行幸した。同月丁未に閼武台に至り、懷朔鎮・撫冥鎮・柔玄鎮を次々と訪問した後、同月乙丑に南に向けて出発し、同月辛未に平城に再び帰還した。これが、第2回平城留守期間(494年7月～494年8月)である。494年10月戊申には神主を洛陽に遷す旨を自ら太廟に告げ、元雍(高陽王)・于烈に運ばせることとした。同月辛亥には平城を後にし、中山郡・信都郡を

経て、11月丁丑に鄴に至り、同月己丑に洛陽に戻った。これが、第2回平城-洛陽間行幸(494年10月~494年11月)である。494年2月に洛陽から平城に向けて北巡に発ち、同年11月に洛陽に帰着するまでの間が、第2回洛陽留守期間(494年2月~494年11月)である。494年12月から495年5月にかけて、孝文帝は洛陽から南斉領を指して南伐に従事し、洛陽を空けた。第1回南斉親征行(494年12月~495年5月)であり、第3回洛陽留守期間(494年12月~495年5月)でもある。

495年9月に洛陽を出立し、同月丙戌に鄴に到着し、10月丙辰に洛陽に帰った。第4回洛陽留守期間(495年9月~495年10月)である。496年8月に洛陽を出発して、同月戊戌に嵩山に着き、同月甲寅に洛陽に帰還した。第5回洛陽留守期間(496年8月~496年8月)である。496年8月または9月に洛陽を出て、同月戊辰に小平津に至って講武した翌日同月癸酉に洛陽に戻った。第6回洛陽留守期間(496年8月または9月~496年9月)である。

497年正月乙巳に洛陽を發って、2月壬戌に太原を経て、同月癸酉平城に到った。ついで反乱を企てた穆泰・陸叡を断罪・誅殺した。第2回洛陽-平城間行幸(497年正月~497年2月)である。先に平城を後にした494年10月から再び戻る497年2月までの2年半の間平城を不在にしていたことになる。これが、第3回平城留守期間(494年10月~497年2月)である。

497年2月甲戌に永固陵に参詣した後、同月某日に平城を出発して同月癸未に雲中に巡幸し、3月庚寅に平城に帰還した。その間が、第4回平城留守期間(497年2月~497年3月)である。

497年3月乙未に平城を進發して、3月己酉に離石に寄り、4月辛未に長安に入り、5月己丑に長安を去って、渭水を通して黄河に入り、6月庚辰に洛陽に帰還した。第3回平城-洛陽間行幸(497年3月~497年6月)である。497年正月に洛陽を出て、同月に平城に行き着き、497年3月

に平城を去って、長安を經由して、同年6月に洛陽に帰るまでが、第7回洛陽留守期間（497年正月～497年6月）である。

497年8月某日に洛陽を出て、同月壬申に河南城に到着し、8月某日に洛陽に還幸した。第8回洛陽留守期間（497年8月～497年8月）である。497年8月庚辰に洛陽を出発して南斉領に進攻し、9月に赭陽城・宛城・南陽城、翌498年正月に新野城、2月甲子に宛北城を各々攻陥した。498年9月己亥に懸瓠において南斉明帝薨去のため、反旆を詔した後、同月丙午に懸瓠を出発して、11月辛巳に鄴に到着し、翌499年正月戊寅には群臣に朝見して澄鸞殿で饗応した。同月乙酉に鄴を立て、同月戊戌に洛陽に帰着した。第2回南斉親征行（497年8月～499年正月）であり、第9回洛陽留守期間（497年8月～499年正月）でもある。

499年2月癸酉に陳顓達が率領する南斉軍が馬圈戍を攻陥したのを受けて、3月庚辰に洛陽を出発した。同月癸未に梁城に到着したが、梁城で発病し、元颯（彭城王）が看病にあたりるとともに、政務を総攬した。孝文帝は同月丁酉に馬圈に到着し、同月戊戌に南斉軍を馬圈から駆逐した。同月庚子に穀塘原に到着した後、同月甲辰に以下の内容の詔を下した。幽皇后馮氏に死を賜与する。元颯（彭城王）に皇太子元恪を呼んで即位させる。元詳（北海王）を司空に任命し、王肅を尚書令に就け、宋弁を吏部尚書に叙し、太尉の元禧（咸陽王）、尚書右僕射の元澄（任城王）の2名を加えて6人が輔政に当たる。4月丙午に穀塘原の行宮において薨去した。孝文帝の他界を以て南伐は終結した。これが、第3回南斉親征行（499年3月～499年4月）であり、第10回洛陽留守期間（499年3月～499年4月）である。

次に章を換えて、以上の孝文帝の行幸・親征行を踏まえて北魏支配者層の平城から洛陽への徙住過程をみてみよう。

註

- (1) 以上、第1章・第2章・第3章の3章は、拙稿「北魏孝文帝代の尚書省と洛陽遷都 - 宗室元氏の尚書省官への任官状況を中心に」(1) (『琉球大学法文学部 人間科学科紀要』27 2012年)に掲載。
  - (2) 以上、第4章・第5章の2章は、拙稿「北魏孝文帝代の尚書省と洛陽遷都 - 宗室元氏の尚書省官への任官状況を中心に」(2) (『法文学部 人間科学科紀要』29 2013年)に掲載。
  - (3) 以上、第6章、拙稿「北魏孝文帝代の尚書省と洛陽遷都 - 宗室元氏の尚書省官への任官状況を中心に」(3) (『法文学部 人間科学科紀要』31 2014年)に掲載。
  - (4) 註(1) 拙稿参照。
  - (5) 孝文帝の行幸・親征行については、以下の研究を参照。
    - ①佐藤智水「北魏皇帝の行幸について」(『岡山大学文学部紀要』5 1984年)
    - ②張金龍『北魏政治史研究』(甘肅教育出版社 1996年 210～219頁)
    - ③同上『北魏政治史』7 (甘肅教育出版社 2011年 316～319頁)
  - ①佐藤氏の研究は、孝文帝の行幸に限定したのではなく、孝文帝を含む、道武帝から孝明帝までの8代に及ぶ皇帝の行幸を対象としたものである。
  - ②張氏の研究は、孝文帝の行幸・親征行に的を絞って、その行程と各地の滞在日数を提示している。
- (6) 平城 - 洛陽間行幸の第1回から第3回までの( )内の年月は、平城を出発した時期と洛陽に到着した時期を表示している。
  - (7) 洛陽 - 平城間行幸の第1回から第2回までの( )内の年月は、洛陽を出発した時期と平城に到着した時期を表示している。



- (8) 南齊親征行の第1回から第3回までの( )内の年月は、洛陽を出発した時期と洛陽に帰着した時期を表示している。
- (9) 平城留守期間は、孝文帝が平城を離れ、臣下が平城を留守した期間である。その第1回から第4回までの( )内の年月は、平城を出発した時期と平城に帰還した時期を表示している。孝文帝は第4回が終わった497年3月以降、同年同月に再び平城を去った後、499年4月に薨去するまで平城に戻ることはなかった。平城を去った497年3月から499年4月まで第5回平城留守期間と数えることは可能であるが、本文で後述するように、平城が497年3月には首都機能を完全に喪失したと考えるが故に、当該期間を平城留守期間とはしなかった。
- (10) 洛陽留守期間は、孝文帝が洛陽を離れ、臣下が洛陽を留守した期間である。その第1回から第4回までの( )内の年月は、洛陽を出発した時期と洛陽に帰還した時期を表示している。

〔表 1〕 孝文帝行幸・親征行並びに平城・洛陽留守期間簡表

行幸・親征行、平城・洛陽留守	期 間
第 1 回平城－洛陽間行幸	4 9 3 年 8 月～4 9 3 年 9 月
第 1 回洛陽－平城間行幸	4 9 4 年 2 月～4 9 4 年 閏 月
第 1 回平城留守期間	4 9 3 年 8 月～4 9 4 年 閏 月
第 1 回洛陽留守期間	4 9 3 年 1 0 月～4 9 4 年 正 月
第 2 回洛陽留守期間	4 9 4 年 2 月～4 9 4 年 1 1 月
第 2 回平城留守期間	4 9 4 年 7 月～4 9 4 年 8 月
第 2 回平城－洛陽間行幸	4 9 4 年 1 0 月～4 9 4 年 1 1 月
第 1 回南齊親征行	4 9 4 年 1 2 月～4 9 5 年 5 月
第 3 回洛陽留守期間	4 9 4 年 1 2 月～4 9 5 年 5 月
第 4 回洛陽留守期間	4 9 5 年 9 月～4 9 5 年 1 0 月
第 5 回洛陽留守期間	4 9 6 年 8 月～4 9 6 年 8 月
第 6 回洛陽留守期間	4 9 6 年 8 月または 9 月～4 9 6 年 9 月
第 2 回洛陽－平城間行幸	4 9 7 年 正 月～4 9 7 年 2 月
第 3 回平城留守期間	4 9 4 年 1 0 月～4 9 7 年 2 月
第 4 回平城留守期間	4 9 7 年 2 月～4 9 7 年 3 月
第 3 回平城－洛陽間行幸	4 9 7 年 3 月～4 9 7 年 6 月
第 7 回洛陽留守期間	4 9 7 年 正 月～4 9 7 年 6 月
第 8 回洛陽留守期間	4 9 7 年 8 月～4 9 7 年 8 月
第 2 回南齊親征行	4 9 7 年 8 月～4 9 9 年 正 月
第 9 回洛陽留守期間	4 9 7 年 8 月～4 9 9 年 正 月
第 3 回南齊親征行	4 9 9 年 3 月～4 9 9 年 4 月
第 1 0 回洛陽留守期間	4 9 9 年 3 月～4 9 9 年 4 月

〔表2〕 北魏孝文帝行幸関係表

年	月日	巡幸	出発地	経過地	到着地・滞在 地（平城 ・鄴・洛陽 ・長安など）	事件
493年	4月戊戌				平城	廢皇后馮氏を立后
	7月乙巳				平城	元恂を立太子
	8月丁亥				平城	永固陵に参詣
	8月己丑	南伐（第1回平城－洛陽間行幸）開始	平城			
	8月戊申				并州	
	9月戊辰			黄河		
	9月庚午				洛陽	
	9月壬申	南伐（第1回平城－洛陽間行幸）停止			洛陽	洛橋・太学・『石經』を訪問
	9月丁丑				洛陽	「洛陽遷都」を宣言
	10月戊寅				洛陽	金墉城行幸。穆亮・李冲・董蔚に洛陽城建設を詔する
	10月己卯	〔南北巡開始〕	洛陽	河南城		

北魏孝文帝代の尚書省と洛陽遷都(4) - 宗室元氏の尚書省官への任官状況に焦点を当てて - (長部悦弘)

	10月乙酉			豫州	
	10月某日	[北転開始]	豫州		
	10月癸巳			石濟津	
	10月乙未			滑台城	行廟に『遷都』の意を報告。滑台宮を起工。
	10月癸卯	[南北巡終了]		鄴	
	11月癸亥			鄴	新宮殿に入る
494年	正月丁未			鄴	澄鸞殿で朝見
	正月癸亥	南巡開始	鄴		
	正月戊辰			朝歌	殷・比干墓を祭る
	正月乙亥	南巡終了		洛陽	西宮に入る
	2月乙丑			河陰	
	2月壬寅	北巡(第1回洛陽-平城間行幸)開始	洛陽		
	2月癸卯			黄河	
	2月甲辰			不明	『遷都』の詔」発布
	閏月癸亥			句注陘南	
	閏月癸亥			蒲池	皇太子元恂謁見
	閏月壬申	北巡(第1回洛陽-平城間行幸)終了		平城	穆羆・于果・元丕ら群臣と遷都の利害を議論
	閏月癸酉			平城	朝堂で洛陽移動者と平城滞留者を区分
	閏月甲戌			平城	永固陵参拝
	3月庚辰			平城	西郊祭天廢止

	3月壬辰				平城	太極殿で遷都計画を説明
	7月壬辰	北巡（陰山巡幸）開始	平城			
	7月戊戌			金陵		
	7月辛丑			朔州		
	8月癸卯			朔州		皇太子元徇謁見
	8月甲辰			陰山		
	8月丁未			閼武台		講武
	8月癸丑			懷朔鎮		
	8月辛酉			撫冥鎮		
	8月甲子				柔玄鎮	
	8月乙丑	[南転開始]	柔玄鎮			
	8月戊辰			旋鴻池		
	8月庚午			永固陵		
	8月辛未	北巡（陰山巡幸）終了			平城	
	9月壬申朔				平城	考課を行うよう命ずる詔を下す
	9月壬午				平城	朝堂において自ら黜陟を加える
	10月甲辰				平城	元丕を太傅に任命
	10月戊申				平城	神主を洛陽に遷す旨を自ら太廟に告げる
	10月辛亥	南巡（第2回平城－洛陽間行幸）開始	平城			
	10月壬戌			中山郡唐湖		
	10月己巳			信都		
	11月丁丑			鄴		

北魏孝文帝代の尚書省と洛陽遷都(4) - 宗室元氏の尚書省官への任官状況に焦点を当てて - (長部悦弘)

	1 1 月 甲申			朝歌		殷・比干墓訪問
	1 1 月 己丑	南巡 (第2回平城-洛陽間行幸) 終了			洛陽	
	1 2 月 戊申				洛陽	平城から洛陽へ移った戸に対して租賦を3年間免除する旨を命ず
	1 2 月 辛亥	南伐 (第1回南斉親征行) 開始	洛陽			
	1 2 月 戊辰			懸瓠		
4 9 5 年	正月 辛未朔			懸瓠		群臣を朝饗
	正月 壬午			汝水西		講武
	正月 己亥			淮水		
	正月 甲辰			八公山		
	正月 丙辰				鍾離	
	正月 辛酉		鍾離			
	正月 壬戌	[北転開始]			長江最近地	馮誕薨去
	3 月 戊寅			邵陽		
	3 月 戊子			邵陽		馮熙薨去
	3 月 乙未			下邳		
	4 月 庚子			(徐州) 彭城		
	4 月 辛丑			(徐州) 彭城		行在所で馮熙のために哀を挙げる
	4 月 癸丑			小沛		使者を派遣して前漢高祖廟を祭る
	4 月 己未			瑕丘		使者を派遣して泰山(岱岳)を祀る
	4 月 庚申			魯城		自ら孔子廟を祀る

4月辛酉			魯城		孔氏4人・顔氏2人を任官。詔して孔氏一族の中から1名を選んで崇聖侯に封じ、邑100戸を賜与し、孔子の祭祀を行わせた。兗州に、孔子のために柘園を開き、墓を修理し、新たに碑を立て、聖徳を褒揚するよう、詔した。
4月戊辰			碣磬		〔洛陽〕太和廟完成 〔『魏書』〕
5月庚午			不明		〔洛陽〕文明太后馮氏の神主を太和廟に移す
5月甲戌			滑台		
5月丙子			石濟		
5月庚辰			平桃城		皇太子元恂謁見
5月癸未	南伐（第1回南斉親征行）終了			洛陽	太廟に報告
5月甲午				洛陽	皇太子元恂に冠礼を施す
6月己亥				洛陽	朝廷での鮮卑語を使用

北魏孝文帝代の尚書省と洛陽遷都(4) - 宗室元氏の尚書省官への任官状況に焦点を当てて - (長部悦弘)

						禁止
	6月癸卯				洛陽	皇太子元恂を太師馮熙の喪に平城へ派遣
	7月丙辰				洛陽	洛陽への移住者は死後の埋葬地を河南に決定。平城への還葬を禁止。すべて本貫地を河南郡洛陽県に変更。
	8月甲辰				洛陽	西宮に行幸
	8月乙巳				洛陽	天下の武勇の士15万人を選んで羽林・虎賁を編制し、宿衛に充当
	8月丁巳				洛陽	金墉宮完成
	9月庚午				洛陽	平城の六官及び文武両官すべてが洛陽に移動完了
	9月某日	[北巡開始]	洛陽			
	9月丙戌	[北巡終了]			鄴	
	9月乙未	[南巡開始]	鄴			
	10月丙辰	[南巡終了]			洛陽	
	11月庚午				委粟山	
	11月甲申				洛陽	圓丘で祭礼
	12月乙未				洛陽	光極堂で群臣を引見。品令を宣



					示。大選をはじめ。
	12月辛酉			洛陽	元禧(咸陽王)を長兼太尉に任命。元羽(広陵王)を青州刺史に任命。
	12月甲子			洛陽	光極堂で群臣を引見
496年	正月丁卯			洛陽	拓跋姓を元氏に変更
	2月辛丑			洛陽	華林園行幸
	2月庚戌			洛陽	華林園行幸
	5月丙戌			洛陽	方沢を河陰に造成
	5月丙戌			洛陽	使者を派遣して後漢光武帝・明帝・章帝を祭る
	5月丙戌			洛陽	詔して後漢・曹魏・西晋の皇帝陵の四方百歩以内で樵蘇踐踏を禁止
	5月丁亥			洛陽	河陰・方沢で祭祀
	7月某日			洛陽	廢皇后馮氏を廢位
	8月壬辰			洛陽	華林園行幸
	8月某日	〔嵩山巡幸開始〕	洛陽		
	8月戊戌			嵩山	
	8月某日		嵩山		
	8月某日				皇太子元恂、平城を目指して洛

北魏孝文帝代の尚書省と洛陽遷都(4) - 宗室元氏の尚書省官への任官状況に焦点を当てて - (長部悦弘)

	8月甲寅	〔嵩山巡幸 終了〕			洛陽	陽を脱出 元恂を引見
	8月丁巳				洛陽	華林園行幸
	8月または 9月某日	〔小平津 巡幸開始〕	洛陽			
	9月戊辰				小平津	講武
	9月某日		小平津			
	9月癸酉	〔小平津巡 幸終了〕			洛陽	
	10月戊戌				洛陽	平城から洛陽へ移動した兵士をみな羽林兵・虎賁兵とし、司州の民から12人に1人を徴発して4年で交替する兵卒とし、毎年順番を決めて公私の力役に従わせた
	12月乙丑				洛陽	鹽池の禁を廃止
	12月丙寅				洛陽	皇太子元恂を廃位
	12月丁卯				洛陽	太廟に報告
	12月				洛陽	恒州刺史穆泰らが叛乱を企て、孝文帝は元澄(任城王)を派遣して穆泰らを制圧して裁いた
497年	正月丙申				洛陽	元恪(のち

						の宣武帝) を立太子
	正月乙巳	北巡(第2 回洛陽-平 城間行幸) 開始	洛陽			
	2月壬戌			太原		
	2月癸酉	北巡(第2 回洛陽-平 城間行幸) 終了			平城	穆泰・陸叡 を断罪・誅 殺
	2月甲戌				平城	永固陵参詣
	2月某日	〔雲中巡幸 開始〕	平城			
	2月癸未			雲中		
	3月庚寅	〔雲中巡幸 終了〕			平城	
	3月辛卯				金陵	
	3月乙未	南巡(第3 回平城-洛 陽間行幸) 開始	平城			
	3月己酉			離石		
	3月丙辰			平陽		使者を派遣 して堯を祭 祀
	4月庚申			龍門		使者を派遣 して禹を祭 祀
	4月癸亥			蒲坂		使者を派遣 して舜を祭 祀
	4月戊辰			龍門		詔して堯・ 舜・禹廟を 修築する
	4月辛未				長安	
	4月戊寅				長安	未央殿・阿 房宮・混明 池を訪問
	4月丙戌				長安	使者を派遣

北魏孝文帝代の尚書省と洛陽遷都(4) - 宗室元氏の尚書省官への任官状況に焦点を当てて - (長部悦弘)

						して前漢諸 皇帝陵を祭祀
	5月己丑	〔東旋〕	長安			
	5月己丑			渭水・黄河		
	5月壬辰			不明		使者を派遣 して西周文 王を鄧で、 武王を鎬で 各々祭祀
	5月癸卯			不明		使者を派遣 して華嶽を 祭祀
	6月庚辰	南巡（第3 回平城－洛 陽間行幸） 終了			洛陽	
	6月壬戌				洛陽	詔して冀州 ・定州・瀛 州・相州・ 濟州の兵士 20万を動員
	6月丁卯				洛陽	禁軍兵士を 洛陽に残る ものと南討 に従軍する ものにと2分
	8月某日	〔河南城行 幸開始〕	洛陽			
	8月壬申				河南城	
			河南城			
	8月某日	〔河南城行 幸終了〕			洛陽	
	8月甲戌				洛陽	華林園で講 武
	8月庚辰	南討（第2 回南斉親征 行）開始	洛陽			

	9月辛丑		赭陽	諸將を残して南斉領赭陽城を攻撃させ、孝文帝は南進
	9月癸卯		宛城	南斉領宛城を攻陥
	9月丁未		南陽	元禧（咸陽王）・元英を残して南斉領南陽城を攻陥させて、孝文帝は南進
	9月己酉		新野	
	10月丁巳		新野	南斉領新野城攻略に失敗
	11月丁酉		不明	南斉軍を沔水北で大破
	12月庚午		沔水	
	12月庚午	〔東還〕	沔水	
	12月戊寅		新野	
498年	正月癸未朔		新野	行宮で群臣を朝饗
	正月丁亥		新野	南斉領新野城を攻陥
	正月庚戌		南陽	
	2月乙卯		宛城	南斉領宛北城に進攻
	2月甲子		宛城	南斉領宛北城を攻陥
	2月庚午		新野	
	3月壬午		不明	南斉軍を鄧城で大破
	3月庚寅		樊城	襄沔で觀兵
	3月辛丑		湖陽	
	3月乙未		比陽	
	3月辛亥		懸瓠	
	8月辛亥		懸瓠	皇太子元恪

北魏孝文帝代の尚書省と洛陽遷都(4) - 宗室元氏の尚書省官への任官状況に焦点を当てて - (長部悦弘)

					(のちの宣武帝)、懸瓠に來朝訪
	8月壬子			懸瓠	反亂を起こした勅勒の樹者討伐を元繼(江陽王)に詔した
	9月己亥			懸瓠	南齊明帝薨去のため、反旆を詔す。勅勒の樹者討伐親征の意志を表明。
	9月丙午	[北巡開始]	懸瓠		
	11月辛巳				鄴
	12月甲寅	[北巡終了]			鄴
					元繼(江陽王)勅勒の樹者を鎮圧したので、班師を詔した
499年	正月戊寅				鄴
					群臣に朝見し澄鸞殿で饗応
	正月壬午				鄴
					西門豹祠を訪問・漳水を渡る
	正月乙酉	[南巡開始]	鄴		
	正月戊戌	[南巡終了] 南討(第2回南齊親征行)終了			洛陽
	正月庚子				洛陽
	2月癸酉				洛陽
					廟社に報告 南齊陳頭達軍、馬圈戍

					を攻陥
3月庚辰	南伐（第3回南斉親征行）開始	洛陽			
3月癸未			梁城		
3月丙戌			梁城		罹病。元颯（彭城王）看病にあたり、政務を総攬。
3月丁酉			馬鬪		
3月戊戌			馬鬪		南斉軍を駆逐
3月某日	[北還開始]		不明		
3月庚子			穀塘原		
3月甲辰			穀塘原		幽皇后馮氏に死を賜与する詔を下す。 元颯（彭城王）に皇太子元恪を呼んで即位させるよう詔を下す。元詳（北海王）を司空に任命し、王肅を尚書令に就け、宋弁を吏部尚書に叙し、太尉の元禮（咸陽王）、尚書右僕射の元澄（任城王）の2名を加えて6人が輔政に当たるよ

北魏孝文帝代の尚書省と洛陽遷都(4) - 宗室元氏の尚書省官への任官状況に焦点を当てて - (長部悦弘)

					う、詔した
	4月丙午	南伐(第3回南斉親征行)終了		穀塘原	行宮において他界
	4月丁巳				皇太子元恪、魯陽で即位(宣武帝)
	5月丙申				長陵に埋葬

※表1・表2は、『魏書』7上 高祖紀上・『魏書』7下 高祖紀下：『北史』3魏本紀3  
 ・『魏書』108之1礼紀志1を基に作成。